

■実績ハイライト

第1四半期は、前年同期と比較して、減収、減益となりました。

遊技機事業におけるパチスロの販売台数は、前年同期実績を下回ったものの、パチンコ販売台数は上回りました。

アミューズメント機器事業におきましては、レベニューシェアタイトルの稼働が堅調に推移いたしました。

アミューズメント施設事業におきましては、セガ国内既存店舗の売上高が前年同期実績を上回りました。

コンシューマ事業におけるゲームソフト販売本数は、前年同期実績を下回る推移となりました。

■主な経営施策

2011年5月に公表いたしましたとおり、2011年8月1日付で、サミーによる当社株式を対価とした、タイヨーエレクトクの完全子会社化を実施いたしました。

本件に伴い発生する、のれん、または負ののれんの額につきましては、第2四半期決算の際に公表させていただきますが、当社業績に与える影響は、軽微であると認識しております。

また、2011年7月29日に開示いたしましたとおり、サミーにおいて、新工場及び新流通センターの建設を決定いたしました。当社では、パチンコ事業の更なる成長を重要な経営課題と位置付けておりますが、これにより、中長期における更なる販売台数の増加に対応できる生産流通体制が整えられるものと考えております。

また、2011年8月1日に開示させていただきましたが、資本効率の向上、ならびに戦略的な資本政策に備えることを目的に、取得株数 500 万株、取得金額 100 億円を上限とする、自己株式の取得について決議いたしました。

■連結損益計算書(要約)

売上高: 653 億円(前年同期比 28.5%減)
営業利益: 29 億円(前年同期比 80.5%減)
経常利益: 32 億円(前年同期比 78.1%減)
四半期純損失: 22 億円(前年同期は 70 億円の四半期純利益)

特許実施許諾解決金など、合計で 36 億円の特別損失を計上いたしました。

第1四半期は、大型タイトルの販売を行った前年同期との比較では、減収、減益という実績になってはおりますが、2011年5月13日に公表いたしました上期の計画に対しては、好調に推移しております。

上期の業績予想につきましては、第2四半期に予定する主力製品の販売動向等を見極めた上で、修正が必要と判断された場合には、速やかに開示いたします。

■連結貸借対照表(要約)

流動資産は、納税による現預金の減少等により、**456億円**減少いたしました。

固定資産は、保有有価証券の時価上昇等により、**72億円**増加いたしました。

その結果、第1四半期末における総資産は、前期末に比べ、**385億円**減少の**4,201億円**となりました。

純資産については、**24億円**減少の**2,830億円**となりました。

自己資本比率は、**64.8%**となり、引き続き、健全な水準を堅持しております。

■遊技機事業

売上高：**299億円**(前年同期比**38.9%**減)

営業利益：**71億円**(前年同期比**53.0%**減)

パチスロにおいては、大型・主カタイトルの販売計画が下期中心であるため、前年同期比約**10万2千台**減の**7千台**の販売に留まりました。

一方、パチンコでは、全てのタイトルの販売が堅調に推移した結果、全体での販売台数は、前年同期比約**3万3千台**増の**8万2千台**となりました。パチンコの盤面販売比率は**29%**となり、期初想定以上に本体販売の比率、すなわち、当社製品の設置シェアが上昇傾向にあります。

今期の計画には、震災の影響による、原材料調達コストの上昇リスクを織り込んでおりましたが、第1四半期までの実績で見ますと、前年度と同水準での推移となっております。また、主に液晶を中心としたリユース効果により、計画に対して、原価が改善いたしました。

上期の見通しですが、パチスロでは、8月1日より設置が開始された『**旋風の用心棒～胡蝶の記憶～**』や、8月下旬設置予定の『**銀と金**』の受注が堅調に推移しております。

パチンコにおいても、上期の主カタイトル『**ぱちんこ CR ALADDIN NEO 小さな皇女と天魔の都**』や、『**ぱちんこ CR 北斗の拳金色(ファルコ)**』、『**デジハネ CR 北斗の拳慈母(ユリア)**』の受注が堅調であり、遊技機事業全体で見ても、上期の公表計画に対して、好調に推移しております。

■アミューズメント機器事業

売上高:76 億円(前年同期比 21.6%減)

営業利益:1 億円(前年同期比 92.3%減)

一部のコンテンツ制作費の費用計上が下期以降に繰延となっております。

第1四半期では、主カタイトルの販売を計画しておらず、プライズ製品などの販売が中心となりました。レベニューシェアタイトルの稼働による配分収益は堅調に推移しており、国内のアミューズメントマシンやプライズ等の売上高に占める割合は、約 23%となりました。

また、欧米事業においては、一部再編を実施し、効率化を図っております。

上期の見通しですが、8月に主カタイトルの『セガネットワーク対戦麻雀 MJ5』などを販売する予定です。

AM 機器事業につきましても、現状、上期の計画に対して、堅調な推移となっております。

■アミューズメント施設事業

売上高:109 億円(前年同期比 1.8%減)

営業利益:6 億円(前年同期比 500.0%増)

減収となったものの、営業費用の削減等により、増益となりました。

セガ国内既存店舗の売上高は、引き続き、『UFO キャッチャー』などのプライズカテゴリーの売上が好調に推移した結果、前年同期比 102.5%となりました。

国内施設においては、3店舗の出店、3店舗の閉店を行った結果、第1四半期末での店舗数は、248店舗となっております。

なお、海外施設につきましては、第1四半期において、米国施設全7店舗の売却が完了しております。

上期の見通しについてですが、第1四半期までの実績を勘案すると、好調な滑り出しであると認識しております。

なお、東日本大震災の影響による、営業休止店舗数は、2011年8月1日時点で、3店舗となっております。

■コンシューマ事業

売上高:160 億円(前年同期比 22.7%減)

営業損失:38 億円(前年同期は 6 億円の営業損失)

前年同期と比較して、のれんの償却額など、営業費用が増加しております。

家庭用ゲームソフト事業では、『龍が如く OF THE END』など、国内での販売は堅調であった一方で、『THOR: God of Thunder』など、海外での新作タイトルの販売が低調に推移いたしました。その結果、ゲームソフト販売本数は、前年同期比 **96 万本減**の **233 万本**となりました。

ソーシャルゲームやスマートフォン向けコンテンツにつきましては、前期より供給を開始した、iOS 向けの『Kingdom Conquest』が **130 万ダウンロード**を突破いたしました。また、その他にも、iOS 向けの『源平大戦絵巻～白の波濤、紅の雲霞～』など、複数の新規タイトルの供給を開始しております。

また、『777タウン』における従量課金が堅調に推移いたしました。

玩具事業、アニメーション事業においては、『アンパンマン』などの主カタイトルの販売、及び配分収入が堅調に推移いたしました。

上期の見通しですが、家庭用ゲームソフト事業では、7月に、国内向けの『ぷよぷよ！！』を発売したほか、9月に海外向けの『ライズ オブ ナイトメア』などを販売いたします。なお、今期の大型・主カタイトルの販売は、下期に集中する予定となっております。

ソーシャルゲームなどのコンテンツにつきましては、『源平大戦絵巻』の新シリーズなど、複数の主カタイトルの供給を継続してまいります。

また、引き続き『777タウン』の収益強化を図ってまいります。

玩具事業においては、『アンパンマン』や『爆丸』などの、国内の主力製品の拡販に注力いたします。

アニメーション事業においては、劇場向け映画『名探偵コナン』の配分収入が堅調に推移しております。

以上

※本資料における業績見通し等の内容は、現時点で入手可能な情報に基づき、経営者が判断したものであります。従って、これらの内容はリスクや不確実性を含んでおり、将来における実際の業績は、様々な影響によって、大きく異なる結果となりうることを予めご承知おき下さい。